

八火図書館の 利用状況について

河口涼一 議員



議員 1項目、八火図書館の利用状況についてということ。(ア)利用者・貸出冊数などの実績(イ)図書教育・文化活動など、どのように進めて行くか、活用、利用方法をどう考えているのかお尋ねします。

私たち町民が待ち望んでおりました八火図書館がリニューアルされて、やがて、丸一年になります。今回、私は、図書館大好き町民の代表として、お礼と感謝の気持ちを込めながらエールを送る意味で質問します。

ぜひ、この機会に、積極的にPRしていただきたいと思います。

この図書館というのは、古くは古代のエジプト時代からあったということ、「魂の治療所」と呼ばれていたそうです。読書をする頭が回転が良くなって、語いも想像力も豊かになりますし、たくさんメリットがあるわけですが、新しい図書館を私達は十分楽しめる。

満足のできる自慢の施設であると思っております。そして、地域が自信を持つ、自信を持ちながら、そこで暮らしていくというのには非常に大事なことです。今後、この図書館を利用して、どしどし、有為な人材、頼もしい人材、感性豊かな人材をたくさん育て、そして、その人材が巣立って活躍をする、地元で活躍いただきたいところですが、その能力とスキルをフィードバックしてくれる人材をどんどん輩出する町だということ、自他ともに認める。そういう図書館を起点にして、まちづくりができればいいなと思っておりますし、それこそ氷川スタイル・氷川デザインではないかと思っております。この図書館自体だれにでも開かれた場所でもありませんし、情報の収集・発信場所として、町内外にメリットを供与できるようなことを一緒に考えて行きながら、どんどん頼もしい人材が

育てて行くことを願いたしております。

生涯学習課長 昨年4月開館から2月末まで、貸出者数7753名、貸出冊数2万5776冊で、旧八火図書館の同時期と比べ、貸出冊数は2倍近くの数です。図書カード登録は、旧図書館から引き続き510名、新規に645名、合計1155名の実績です。図書館利用者数は把握していませんが、たくさんの方が読書、新聞雑誌の閲覧をされています。

特に夏休み、冬休みの利用は多かったです。(イ)図書教育・文化活動などの進め方については、図書購入予算を前年の120万円から400万円に増額し、年間3000冊増冊していき、当初の2500冊から4万冊への計画をしています。図書館の利用については、毎週木曜日は、開館を2時間延長し、8時までとし、皆さんの利便性を高め、好評を得ています。八火図書館で実施する事業は、年に一度11月に文学バスツアー。文学散歩。2月に光永星

郎氏命日に「本まつり」を行い、読書感想文・感想画の優秀作品や、多くの本を読まれた多読者の表彰、人形劇の観劇などを行っています。28年度からは、幼児・児童を対象にお話会の開催を計画しています。ホームページも充実させ、広報誌などでも新刊情報や活動などPRしていきたいと考えています。年4回の図書館協議会で意見交換、情報を集約し町民の皆様のための図書館となるよう努力いたします。

議員 貸出者数の中で、カード登録者が1155名とありますが、人口比では10%にもならないということですね。まだまだ、できたばかりですが、図書館って、こんな楽しい、いろんなことができる、楽しめますよとPRに努めていたと思いますが、貸出数・貸出利用率を増やしていく必要があると思います。他に何か問題点などありませんか。

生涯学習課長 特には無いようですが、返却遅れがたまにあるようです。

議員 今、八火図書館においては、読みたい本のリンクエストシステムなどあるようですが、ネットで検索、予約などは可能ですか。

生涯学習課長 ホームページは開設しています。予約については検討してみます。

教育長 一年間で大きく貸出冊数が伸び喜んでいますが、落ち着いた明るい空間でゆっくり出来る環境が整ってきたかなと思います。さらに、充実するよう目的意識を持ち取り組めます。

町長 課題であった新図書館がオープンし、本当によかったなと思っております。利活用しやすい環境を整備して、大きな仕事を、たと認識しております。教育委員会と一緒に考えてまいります。

議員 私達、町民の自慢の施設でありますし、大いに誇っていただける施設です。ぜひ、一緒に今後の活用を考えていければと思います。

有佐駅前から国道3号線までの 鏡宮原線の拡幅及び歩道設置 について

片山裕治 議員



議員 有佐駅利用の通勤・通学の方や車両の町道・国道へのアクセスに重要な道路でもあります。住民の方々の安全に歩行できる歩道の確保と、スムーズな車の離合が望まれています。しかしながら県道であり、氷川町といたしましては、県に早急に有佐駅前から国道3号線までの鏡宮原線の拡幅及び歩道の設置を要望すべきではないのかお尋ねいたします。

建設下水道課長 合併10年を経過しましたが、西上宮地区、宮園地区、新村地区からの道路拡幅及び歩道整備についての要望は提出されておられません。道路整備については、県に要望、県に確認しましたが、町が要望をする場合、地権者の同意及び費用対効果、並びに町のまちづくりの考えが重要になるということでお答えが

りました。先ほども申し上げましたように、県道両側に住居及び店舗等が密集しております。道路拡幅及び歩道整備事業は難しいものと考えておりますので、熊本県への要望は現在のところ考えておりません。

議員 交通事故の危険性も高い道路でありますし、総合戦略のまちづくりの中の一環につながることであり、担当課も現実的な問題で答えたのかなと思っておりますけれども、一番大切なことは、有佐駅の所在地でありますので八代市と氷川町の連携というのにも必要かなと思っております。昨年の3月23日に八代市・氷川町の定住自立圏構想の協定を結ばせていただきました。まさに連携という部分で、有佐駅前の再開発・道路の整備も含めま

してそういった提案はできると思っております。氷川町への定住の促進にという良い効果が表れるわけでございます。無駄なことではないと思っておりますので、これからまた八代市との、まず協

議員 氷川警察署も28年度をもちまして八代警察署に統合され、29年4月より機動センターとして運用され、新しく移転先の建設ができ次第移転と聞いております。新しい機動センターでも約35名の方々が勤務されるようです。警察官の方々が安心して仕事をしていただくための住居環境整備を必要とされます。そのためにも、家族とより良い生活空間の確保をし、仕事に励んでいただくためにも、住みやすい住宅の提供をしてはどうでしょうか。

建設下水道課長 県では、

職員住宅のあり方について検討され、基本方針を定められております。その背景としては、民間における住宅供給が充実するとともに交通基盤の整備、モータリゼーションの進展により通勤圏が拡大し、県が職員の住宅を供給する必要性が低下していること、入居者が固定することで職員間に不公平感が生じることなど、八代市及び宇城市においても職員住宅はありませぬ。災害などの緊急時等においても町職員が居住地から役場へ参集することができると、職員住宅の建設は必要ないと考

えております。

議員 職員の皆さんが地域にいてくれたら、やはり住民の方も安心すると思うし、またそれで職員住宅だから安くしろということではなくて、返済に合った家賃を設定すれば何年返済か計画できるのではないのかお尋ねいたします。

町長 基本的な考え方は今、課長がお示しをいたしましたとおりでございます。住居感情あるいはそういった費用対効果の部分も考えますとなかなか厳しいものがあります。現在あります県職員の官舎等々につきましては、かなり老朽化が著しくございますので、今後県のほうに、できればリフォームなり、あるいは新しく建て替えるなり、そしてこの地に住んでそれぞれに勤めていただくような環境をつくっていただきたいということはぜひ要望してまいりたいと思っております。

有佐駅前から国道3号線までの 鏡宮原線の拡幅及び歩道設置について

公務員住宅の 建設について